

航空加俸支給規則

第五條 加俸ハ毎月末日^{十二月ハ二十五日}之ヲ支給ス但シ當日休暇ニ當ルトキハ順次之ヲ繰上ク
轉免死亡等ノ場合ハ前項ノ定日ニ拘ラス其ノ際之ヲ支給ス

附 則

本達ハ大正十四年十月一日ヨリ之ヲ適用ス

大正十四年十月三十一日迄ノ航空加俸ニシテ本達ノ規定ニ依リ難キモノアルトキ又ハ從前ノ規定ニ依リ支給セラルル額カ本達ニ依リ支給セラルル額ヨリ多キトキハ仍從前ノ規定ニ依ルコトヲ得

第一表 航空加俸表

區 別	月 額			日 額	
	甲	乙	丙	甲	乙
士官、特務士官、高等文官、同待遇者	六〇〇〇 ^円	三〇〇〇 ^円	二〇〇〇 ^円	六〇〇 ^円	三〇〇 ^円
候補生、准士官、判任文官一等	四〇〇〇	二〇〇〇	一〇〇〇	四〇〇	二〇〇
下士官、判任文官二等以下、判任文官待遇者	三〇〇〇	一五〇〇	一〇〇〇	三〇〇	一五〇
兵、雇員傭人、職工	二〇〇〇	一〇〇〇	五〇〇	二〇〇	一〇〇

一 練習部ヲ置ク航空隊ニ於テ第一搭乗配置ニ在ル教官又ハ教員其ノ艦上發着ヲ行フ航空母艦ニ於テ右ニ準スル者飛行機又ハ航空船ノ

操縦教導ヲ擔任スルトキハ其ノ教導擔任期間ニ受クヘキ月額加俸ノ五割ヲ増給スルコトヲ得

二 練習部ヲ置ク航空隊ニ於テ第一搭乗配置ニ在ル教官又ハ教員ニシテ飛行機又ハ航空船ノ偵察其ノ他機上作業ノ教導ヲ擔任スルトキハ其ノ教導擔任期間ニ於テ受クヘキ月額加俸ノ三割ヲ増給スルコトヲ得

三 月額ノ加俸ヲ受クル者新式若ハ新設計ノ航空機ニ搭乗シ又ハ特ニ危険ト認ムル試験、航空交通若ハ航空輸送ニ從事スルトキハ其ノ一日ニ付日額甲ノ加俸ヲ増給スルコトヲ得

四 前三號ニ依ル増給ハ併セテ月額甲ノ五割ヲ超ユルコトヲ得ス

五 日額ノ加俸ノミヲ受クル者一箇月ノ加俸額ハ月額甲ヲ超ユルコトヲ得ス

六 配置ノ變更等ニ依リ同月中月額及日額ノ航空加俸ヲ受クル者第一號乃至第三號ニ依リ増給ヲ受ケサルトキハ一箇月ノ加俸額ハ月額甲ヲ超ユルコトヲ得ス

七 月額ノ加俸ニ對シ増給スルトキ又ハ日額ノ加俸ヲ支給スルトキハ所轄長ハ其ノ都度事由ヲ具シ所屬長官ノ認許ヲ受クヘシ

第二表 航空加俸支給區分

區 別	事 項
第一表月額甲ヲ給スヘキ者	一 航空隊ニ於テ第一搭乗配置ニ在ル者 二 航空母艦、航空機搭載中ノ艦船ニ於テ右ニ準スル者 三 検査官同附ニシテ検査試験ノ爲當時航空機搭乗ノ配置ニ在ル者
第一表月額乙ヲ給スヘキ者	一 航空隊ノ學生、練習生ニシテ航空機搭乗ヲ修得スル者 二 航空隊ノ司令、副長、機關長、教頭

航空加俸支給規則

第一表月額丙ヲ給スヘキ者	一 航空隊ニ於テ第二搭乗配置ニ在ル者 二 航空母艦、航空機搭載中ノ艦船ニ於テ右ニ準スル者
第一表日額甲ヲ給スヘキ者	一 新式若ハ新設計ノ航空機ニ搭乗シ又ハ特ニ危険ト認ムル航空機試験ニ従事スル者 二 航空交通若ハ航空輸送ニ従事スル者 三 豫備役、後備役ノ軍人及海軍隊員ニシテ演習中航空勤務ニ服シ航空機ニ搭乗スル者
第一表日額乙ヲ給スヘキ者	前各項ニ該當セサル者ニシテ検査、試験、研究、講習其ノ他勤務上ノ必要ニ依リ臨時ニ航空機ニ搭乗ヲ命セラレタル者
備考	同一人ニシテ本表各項ニ該當スル者ニハ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外多額ニ付之ヲ給ス

●軍用ノ航空機ニ乗シ航空演習ニ従事スル者ニ一時賜金ヲ給與スルノ件 (大正二年二月二十二日 勅令第九號)

第一條 軍用ノ航空機ニ乗シ航空演習ニ従事スル者自己ノ重大ナル過失ニ因ルニ非スシテ演習中死亡シ又ハ傷痕ヲ受ケ不具癱疾ト爲リタルトキハ本令ニ因リ別表ノ一時賜金ヲ給ス該傷痕ニ因リ三年以内ニ死亡

シタル者不具癱疾ノ爲ニ一時賜金ヲ受ケサルトキ亦同シ

第二條 本人死亡ノ後ニ於テ給スヘキ一時賜金ハ之ヲ其ノ遺族ニ給ス

前項遺族ト稱スルハ寡婦、子、父母、祖父母、兄弟及姉妹ニシテ本人死亡當時ヨリ引續キ同一戸籍内ニ在ル者ヲ謂フ但シ本人死亡後出生シタル嫡出ノ子ハ死亡ノ當時其ノ家ニ在ルモノト看做ス

第三條 一時賜金ヲ受クヘキ遺族ノ順位ハ前條第二項ニ掲ケタル順序ニ依リ同順序内ニ在リテハ男ハ女ニ先チ長ハ幼ニ先ツ但シ死亡者ノ家督相續人ハ同順序内ニ在リテハ最先トス

第四條 第二條ノ遺族ナキ場合ニ於テハ本人死亡ノ當時實家ニ在ル實父母、死亡者ノ家督相續人、本人死亡當時ニ於ケル戸主ノ順位ニ依リ別表金額ノ二分ノ一ヲ給スルコトヲ得

第五條 一時賜金ハ第一條ノ規定ニ依リ之ヲ受クヘキ事由ノ生シタル日ヨリ二年以内ニ請求セサルトキハ之ヲ受クルノ資格ヲ失フ

第六條 不具癱疾ノ爲受クヘキ一時賜金ハ軍人又ハ文官ニ非サル者ニ限り之ヲ給ス

第六條ノ二 前數條ノ規定ハ軍事上ノ必要ニ依リ軍用ニ非サル飛行機又ハ氣球ニ乗シ死傷シタル者ニ之ヲ準用ス

第七條 本令ニ依リ一時賜金ヲ受ケタル事由ニ對シテハ朝鮮臺灣滿洲樺太並在外陸海軍雇員傭人死傷手當金給與規則、各廳技術工藝ノ者就業上死傷手當内規又ハ傭人扶助令ニ依ル手當金又ハ扶助金ハ之ヲ給セス

軍用ノ航空機ニ乗シ航空演習ニ従事スル者ニ一時賜金ヲ給與スルノ件

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

別表略ス

●航空勤務者保護賜金令

(大正八年八月十二日 勅令第三百七十一號)

第一條 軍用ノ航空機ニ乗シ航空勤務ニ従事スル者自己ノ重大ナル過失ニ因ルニ非スシテ勤務中死歿シ又ハ傷痍ヲ受ケテ之カ爲該傷痍ヲ受ケタル日ヨリ三年内ニ死歿シ若ハ不具癱疾ト爲リタルトキハ當分ノ内
 大正二年勅令第九號ニ依ル一時賜金ノ外別表ノ區分ニ從ヒ保護賜金ヲ賜與ス但シ不具癱疾者保護賜金ヲ受ケタル後死歿シタル場合ニ於テハ其ノ受ケタル金額別表ノ死歿者保護賜金ノ額ニ達セサル者ニ限り其ノ差額ニ相當スル金額ヲ死歿者保護賜金トシテ賜與ス

第二條 大正二年勅令第九號第二條乃至第五條、第六條ノ二及第七條ノ規定ハ前條保護賜金ノ賜與ニ關シ之ヲ準用ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(別表)

身 區 分	死 歿 者 保 護 賜 金	不 具 癱 疾 者 保 護 賜 金	
		終身自用ヲ辨スルコト能ハサル者	終身業務ヲ營ムコト能ハサル者
高等官及同待遇者並海軍候補生	一〇、〇〇〇圓	一〇、〇〇〇圓	六、六〇〇圓
見習士官並判任官一等及同待遇者	五、〇〇〇	五、〇〇〇	三、三〇〇
判任官二等以下及同待遇者並兵卒、雇員、傭人及職工	三、〇〇〇	三、〇〇〇	二、〇〇〇
			其ノ他ノ者 四、四〇〇圓以内

●大正二年勅令第九號及大正八年勅令第三百七十一號

ニ依ル賜金賜與手續 (大正八年八月十三日 陸軍省令第二十三號)

大正二年勅令第九號及大正八年勅令第三百七十一號ニ依ル賜金賜與手續左ノ通之ヲ定ム

第一條 陸軍所管ノ者又ハ其ノ遺族ニシテ大正二年勅令第九號ニ依ル一時賜金又ハ大正八年勅令第三百七十一號ニ依ル保護賜金ヲ受ケムトスルトキハ請求書(寡婦ヨリ請求スル場合ニ於テ同一戸籍内ニ父、母、祖父、祖母又ハ戸主アルトキハ其ノ内一名以上ノ連署ヲ要ス)ニ左ニ掲クル書類ヲ添ヘ死歿シ又ハ傷痍ヲ定ケタル當時ノ所屬部隊長ヲ經テ陸軍大臣ニ差出スヘシ

大正二年勅令第九號及大正八年勅令第三百七十一號ニ依ル賜金賜與手續

一 死歿シタル場合ニ在リテハ航空勤務中死歿シ又ハ傷痍ヲ受ケタルコトヲ證明スヘキ書類、死亡診斷書(死體檢案書)及航空者ノ死亡ヲ登記シタル戶籍謄本

二 不具癱疾ト爲リタル場合ニ在リテハ航空勤務中傷痍ヲ受ケタルコトヲ證明スヘキ書類及診斷書

第二條 前條ノ證明書類ニハ所屬部隊、官等級氏名(官等級ナキ者ハ其ノ身分及給料額)及死歿又ハ負傷ノ原因等ヲ、診斷書ニハ

勤務中ノ傷痍ニ基因シ不具癱疾ト爲リタル症狀ノ經過及陸軍軍人傷痍疾病恩給等差例ニ準シ其ノ輕重ノ度ヲ明記スヘシ

第三條 航空勤務中死歿シ又ハ傷痍ヲ受ケタルコトヲ證明スヘキ書類ハ其ノ勤務ヲ監督セル將校ニ於テ、

死亡診斷書及診斷書ハ主任軍醫ニ於テ調製シ當該所屬部隊長ノ承認ヲ經テ本人又ハ遺族ニ交付スヘシ但シ退職又ハ解雇、解備後若ハ自己治療中死歿シ又ハ不具癱疾ト爲リタル場合ニ在リテハ死亡診斷書又ハ診斷書ニ準シ主治醫ニ於テ調製シタル書類ヲ添附スヘシ

第四條 大正二年勅令第九號及大正八年勅令第三百七十一號ノ一時賜金及保護賜金ヲ同時ニ請求スル場合ニ在リテハ同一請求書ヲ以テ請求スルコトヲ得

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正二年陸軍省令第一號ハ之ヲ廢止ス

●大正二年勅令第九號及大正八年勅令第三百七十一號

ニ依ル賜金賜與手續(大正八年八月十三日 海軍省令第十八號)

大正二年勅令第九號及大正八年勅令第三百七十一號ニ依ル賜金給與細則左ノ通定ム

第一條 海軍所管ノ者又ハ其ノ遺族ニシテ大正二年勅令第九號又ハ大正八年勅令第三百七十一號ニ依リ一時賜金又ハ保護賜金ヲ受ケムトスルトキハ海軍大臣ニ宛テタル請求書(寡婦ヨリ請求スル場合ニ於テ同一戶籍内ニ父、母、祖父、祖母又ハ戶主アルトキハ其ノ内一名以上ノ署ヲ要ス)ニ左ニ掲クル書類ヲ添ヘ所轄長ニ差出スヘシ

一 治療ヲ俟タスシテ死亡シタル者ノ遺族ヨリ請求スル場合ニ在リテハ事實證明書、死體檢案書及戶籍謄本

二 治療中死亡シタル者又ハ不具癱疾ト爲リ一時賜金ヲ受ケスシテ死亡シタル者ノ遺族ヨリ請求スル場合ニ在リテハ事實證明書、負傷若ハ罹病證書、診斷證書(退職、解雇後死亡シタル者ニ限ル)死亡診斷書及戶籍謄本

三 不具癱疾者ヨリ請求スル場合ニ在リテハ事實證明書、負傷若ハ罹病證書及診斷證書
所轄長前項ノ請求書ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ順序ヲ經テ海軍大臣ニ進達スヘシ

第二條 前條ノ事實證明書ニハ所屬、官等級氏名(官等級ナキ者ハ身分給料額)、死亡負傷若ハ罹病ノ原因ヲ又死體ヲ收容シ能ハサルトキハ死亡認定ノ理由ヲ、診斷證書ニハ傷病名、原由、症狀、經過處置及結果ヲ詳記スルモノ

トス

第三條 事實證明書ハ航空勤務ヲ監督セル將校之ヲ調製シ所屬長官ノ承認ヲ經、負傷若ハ罹病證書、診斷證書、死亡診斷書(又ハ死體檢案書)ハ軍醫官之ヲ調製シ一時賜金又ハ保護賜金ヲ受クヘキ本人又ハ遺族ニ交付スヘシ但シ退職、解雇後死亡シタル者又ハ不具癱疾ト爲リタル者ノ診斷證書又ハ死亡診斷書ハ軍醫官又ハ地方醫師ノ調製シタルモノトス

第四條 大正二年勅令第九號及大正八年勅令第三百七十一號ノ一時賜金及保護賜金ヲ同時ニ請求スル場合ニ在リテハ同一請求書ヲ以テ請求スルコトヲ得

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正二年二月海軍省令第四號ハ之ヲ廢止ス

●恩給法拔萃(大正十二年四月法律第四十八號)

第三十六條 航空機乗員タル公務員其ノ職務ヲ以テ航空勤務ニ服シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付二月以内ヲ加算ス

第四十六條 公務員公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ不具癱疾ト爲リ失格原因ナクシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給及增加恩給ヲ給ス

公務員公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ失格原因ナクシテ退職シタル後五年内ニ之カ爲不具癱疾ト爲リ又ハ其ノ程度増進シタル場合ニ於テ其ノ期間内ニ請求シタルトキハ新ニ普通恩給及增加恩給ヲ給シ又ハ現ニ受クル増加恩給ヲ不具癱疾ノ程度ニ相應スル増加恩給ニ改定ス

前項ノ期間ヲ經過シタルトキト雖恩給審査會ニ於テ不具癱疾カ公務ニ起因シタルコト顯著ナリト議決シタルトキハ決議後之ニ相當ノ恩給ヲ給シ又ハ改定ス

公務員公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ不具癱疾ト爲ルモ公務員ニ重大ナル過失アリタルトキハ前三項ニ規定スル恩給ヲ給セス

第四十九條 公務傷痍ノ原因ヲ分ツテ戦闘又ハ戦闘ニ準スヘキ公務ト普通公務トス
戦闘ニ準スヘキ公務ノ範圍及公務傷病ニ因ル不具癱疾ノ程度竝教育職員、警察監獄職員、待遇職員、準文官、準軍人及準教育職員ノ公務傷病ニ關スル規定ノ適用ニ付テノ階等ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六十條(第六項) 第四十六條、第五十四條第一項第二號若ハ第三號又ハ前項ノ規定ニ依リ在職年十五年未滿ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ額トス

第六十五條 公務員ノ増加恩給ノ年額ハ退職當時ノ階等、傷病ノ原因及不具癱疾ノ程度ニ依リ定メタル別

表第二號表ノ金額トス

前項ノ規定ハ公務員ニ準スヘキ者ニ給スヘキ増加恩給ノ年額ニ付之ヲ準用ス

●恩給法施行令拔萃

(大正十二年八月勅令第三百六十七號)

第十四條 恩給法第三十六條ノ規定ニ依リ航空加算ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ左ノ區分ニ依ル

一 同月内ニ於テ飛行時數五時間以上飛行機ニ搭乘シ航空勤務ニ服シタルトキ又ハ航空機ニ搭乘シ特ニ危険ト認ムル航空試験ニ從事シタルトキハ其ノ一月ニ付一月半

二 同月内ニ於テ飛行時數一時間以上飛行機ニ搭乘シ又ハ五時間以上航空船、航行中ノ艦船繫留ノ氣球若ハ自由氣球ニ搭乘シ航空勤務ニ服シタルトキハ其ノ一月ニ付一月

三 前二號ニ掲クルモノヲ除クノ外航空機ニ搭乘シ航空勤務ニ服シタルトキハ其ノ一月ニ付半月

第二十三條 恩給法第四十九條第二項ノ規定ニ依ル戰鬥ニ準スヘキ公務ニ因ル傷痍疾病トハ左ニ掲クルモノヲ謂フ

四 航空機ニ乗シ航空勤務中又ハ潛水艦ニ乗シ潛航勤務中ノ不可抗力ニ因ル傷痍疾病

●恩給給與細則拔萃

(大正十二年十月閣令第七號)

第十二條 恩給法施行令第十四條又ハ第十七條ノ規定ニ依ル加算ヲ爲スヘキ勤務ニ服シタルトキハ其ノ所屬長官ハ勤務日誌ヲ作り恩給請求ニ際シ其ノ寫ヲ差出スヘシ

●恩給取扱手續拔萃

(大正十三年四月陸令第一五號)

第二條 恩給給與細則第十二條ニ依ル勤務日誌ハ別紙第一號及第二號書式ニ依リ公務員ノ勤務スル部隊ノ長ニ於テ調製スルモノトス

前項ノ勤務日誌ハ公務員其ノ勤務スル部隊ヲ轉スル毎ニ其ノ舊勤務部隊ノ長ヨリ之ヲ新勤務部隊ノ長ニ送付スルモノトス

公務員退職(註畧)若ハ死亡シタルトキ又ハ軍人ニシテ待命、休職若ハ停職ト爲リタルトキハ第一項ノ勤務日誌ハ當該公務員ノ兵籍又ハ文官名簿所管部隊ニ送付シ該部隊ニ於テ之ヲ保管スルモノトス但シ當該公務員ノ最後ノ勤務部隊ト其ノ所屬部隊ト異ルモノニ付テハ勤務日誌ノ送付ハ其ノ所屬部隊長ヲ經由スルモノトス

●恩給取扱手續拔萃

(大正十二年十一月
海軍省達第二一七號)

第五條 恩給給與細則第十二條ニ依ル勤務日誌ハ別紙様式ニ依リ各人別ニ所轄長之ヲ調製シ本人轉勤ノ際ハ其ノ寫ニ通テ作リ履歷書(表)ノ正本ヲ保管スル官廳ニ送付スヘシ

(様式畧)

●逓信大臣主管公益法人ノ設立及監督ニ關スル規則

(大正二年九月廿二日
逓信省令第九十號)

第一條 民法第三十四條ニ依リ逓信大臣ノ許可ヲ得テ法人ヲ設立セムトスル者ハ社團ニ在リテハ定款、資産ノ種類及總額並社員ノ員數、財團ニ在リテハ寄附行爲並資産ノ種類及總額ヲ具シ逓信大臣ニ申請スヘシ

第二條 法人ハ其ノ設立ノ日ヨリ二週間内ニ左ニ掲クル事項ヲ逓信大臣ニ届出ツヘシ第一號ノ事項ニ付變更ヲ生シタル場合亦同シ

一 理事及監事ノ氏名、住所

二 財産目録

第三條 法人ハ前年末ノ現在ニ依リ毎年初ノ一月内ニ左ニ掲クル事項ヲ逓信大臣ニ届出ツヘシ但シ特ニ事業年度ヲ設クルモノニ在リテハ毎年度末ノ現在ニ依リ翌年度ノ初ノ一月内ニ之ヲ届出ツヘシ

一 法人ノ目的トスル事業ノ狀況

二 財産目録及收支計算表

社團法人ニ在リテハ前項ニ掲クル事項ノ外社員ノ員數ヲ届出ツヘシ

前二項ノ規定ニ依ル届出ハ逓信大臣ヨリ補助金ノ支給ヲ受クル法人ニシテ命令書ノ規定ニ依リ之ト同一ノ事項ヲ届出ツル場合ニ於テハ之ヲ省略スルコトヲ得

第四條 法人ノ設立者又ハ法人ヨリ逓信大臣ニ差出ス願書又ハ届書ハ總テ其ノ主タル事務所所在地ノ逓信

局長ヲ經由スヘシ

附 則

本令ハ大正二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

●財團 帝國飛行協會寄附行爲

(大正三年九月)

第一章 總則

第一條 本會ハ航空ニ關スル學術技藝及機具ノ進歩發達ヲ獎勵保護シ其趣味智識ヲ普及シ兼テ會員相互研
究ノ便利ヲ謀ルヲ以テ目的トス

第二條 本會ハ帝國飛行協會ト稱ス

第三條 本會ハ本部ヲ東京市麴町區有樂町壹丁目壹番地ニ置キ必要ニ應シ各地ニ支部又ハ特別ナル機關ヲ
設ク

第四條 本會ハ皇族ヲ推戴シテ總裁トス

第二章 會員

第五條 本會ハ皇族王族ヲ推戴シ名譽會員トス

第六條 男女ヲ問ハス本會ノ趣旨ヲ賛成シ金貳圓以上ヲ寄附スル者ヲ本會會員トス

第七條 本會會員ニハ其寄附金ノ多少ニ應シ特異ノ會員章ヲ贈附シ本會優待ノ義ヲ明カニス

第八條 會員ハ其寄附金ノ使途ヲ指定スルコトヲ得

第三章 資產

第九條 本會ノ資產ハ寄附金及雜收入ヨリ成ル

第十條 本會一切ノ經費ハ收得金ヨリ支出シ其剩餘金ハ翌年度へ繰越シ又ハ本會基本金ニ繰入ル

第十一條 本會ノ會計年度ハ毎年四月一日ヨリ起リ翌年三月三十一日ニ終ル

第四章 評議員

第十二條 本會ニ評議員百名以上ヲ置ク

第十三條 評議員ハ會長ノ推薦ニ依リ總裁之ヲ囑託シ其任期ハ三ケ年トス

評議員ハ名譽職トス

第十四條 評議員會ハ會長ノ招集ニ依リ之ヲ開ク

評議員會ノ議長ハ會長トシ出席員ノ過半數ヲ以テ議決ス可否同數ナル時ハ議長之ヲ決ス

第五章 理事及監事

第十五條 本會ニ理事三十名以內監事五名以內ヲ置キ評議員會ニ於テ東京居住者中ヨリ之ヲ互選シ其ノ任
期ハ滿三ケ年トス但再選スルコトヲ得

理事及監事ハ名譽職トス

第十六條 理事ノ互選ニ依リ會長一名副會長一名又ハ二名ヲ置ク

會長ハ會務ヲ總理ス副會長ハ會長ヲ輔佐シ會長事故アルトキハ其任務ヲ代理ス

- 會長副會長共ニ事故アルトキハ理事中ノ年長者其任務ヲ代理ス
- 第十七條 理事會ノ議長ハ會長トシ出席員ノ過半數ヲ以テ議決ス可否同數ナルトキハ議長之ヲ決ス但寄附行爲ノ變更ハ理事三分ノ二以上ノ同意アルニアラサレハ議決スルコトヲ得ス
- 寄附行爲ノ變更ハ主務官廳ノ認可ヲ受クルヲ要ス
- 第十八條 理事ハ年度終了後ニ於テ前年度ノ事業報告 收支決算 財産目錄 貸借對照表ヲ作り監事ノ承認ヲ經テ評議員會ニ報告スヘシ

附 則

- 第十九條 帝國飛行協會舊寄附行爲第五條第七條ノ準會員ハ寄附行爲改正ト共ニ本寄附行爲第六條ノ本會員タル資格ヲ有スルモノトス
- 第二十條 寄附行爲ニ依ル會員ノ年賦贖金ハ從來ノ規定ニ從ヒ取扱フモノトス

◎義勇財團海防義會寄附行爲

(大正十一年七月)

第一章 總 則

- 第一條 帝國海事協會ハ其所有ニ係ル帝國義勇艦隊建設義金所屬ノ資産ヲ以テ財團法人ヲ設立ス

第二條 本財團法人ハ義勇財團海防義會ト稱ス

第三條 本會ハ帝國ノ海防ニ貢獻スルヲ以テ目的トシ左ノ事業ヲ行フ

- 一 軍用ニ供シ得ヘキ船舶、機器ヲ製造又ハ購入シ適當ノ方法ヲ以テ之ヲ管理シ又ハ處分スルコト
- 二 造船、造兵、造機、航海、航空、潜航及海防ニ關スル特殊事項ノ研究、調査、著作ヲナシ且之ヲ獎勵助成スルコト

三 前號ノ成績顯著ナル者ニ對シテハ表彰ヲ爲スコト

四 外國ニ於ケル第二號ト同種ノ事業ヲ紹介シ又ハ著作ヲ翻譯スルコト

五 海防ニ關スル思想普及ノ爲メ適切ナル施設ヲナスコト

前項以外ノ事項ト雖モ海防ニ必要ト認ムルモノハ之ヲ行フコトアルヘシ

第四條 本會ノ事務所ハ之ヲ東京市ニ置ク

第五條 本會ノ事業年度ハ毎年一月一日ヲ以テ始まり十二月三十一日ヲ以テ終ル但初年度ハ本會設立ノ日ヲ以テ始マル

第二章 總裁、副總裁及顧問

第六條 本會ハ名譽ノ爲メ皇族ヲ總裁ニ推戴ス

第七條 本會ハ評議員會ノ決議ヲ以テ地位名望アル者二人ヲ副總裁ニ推薦ス

第八條 本會ハ評議員會ノ決議ヲ以テ顧問若干人ヲ推薦ス

顧問ハ本會ノ諮問ニ應シ且隨時理事會及評議員會ニ出席シテ意見ヲ開陳ス

第三章 役員

第九條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク

一、理事長 一人

二、理事 六人乃至十人

三、監事 三人乃至五人

四、評議員 六十人乃至百人

第十條 理事及監事ハ評議員會ニ於テ評議員中ヨリ之ヲ選任ス

理事長ハ理事ノ互選ニ依ル

第十一條 理事長ハ本會ヲ代表シ會務ヲ總理シ理事會及評議員會ノ議長トナル

理事ハ會務ヲ掌理ス

第十二條 監事ハ本會ノ財産及業務執行ノ狀況ヲ監査ス

監事ハ財産ノ狀況又ハ業務ノ執行ニツキ不整ノ廉アルコトヲ發見シタルトキハ之ヲ評議員會又ハ主務官

應ニ報告ス

監事ハ前項ノ報告ヲ爲スタメ必要アルトキハ評議員會ヲ招集ス

第十三條 評議員ハ評議員會ニ於テ之ヲ選任ス但本會設立ノ際ハ帝國義勇艦隊創設委員ヲ以テ之ニ充ツ若

シ定員ニ充タサルトキハ創設委員會ニ於テ之ヲ補足ス

評議員ハ重要ナル會務ヲ審議ス

第十四條 理事長、理事及監事ノ任期ハ三年トス但重任ヲ妨ケス

補缺者ノ任期ハ前任者ノ殘任期ニ依ル

理事及監事任期滿了ノ場合ニ於テハ其後任者ノ就職スル迄仍ホ前任者ニ於テ其職務ヲ行フモノトス

(大正十三年八月二十三日追加)

第十五條 本會ハ必要ニ應シ各種ノ委員ヲ置ク

委員ニ關スル規則ハ別ニ之ヲ定ム

第十六條 本會ニ必要ナル職員ヲ置キ理事長之ヲ命免ス

第四章 會員及贊助員

第十七條 本會ハ名譽ノ爲メ皇族ヲ名譽會員ニ推戴ス

第十八條 本會ノ趣旨ヲ賛成シテ金百圓以上ヲ寄附スル者ハ特別會員金參拾圓以上ヲ寄附スル者ハ通常會

員トシ金五圓以上ヲ寄附スルモノヲ贊助員トス

本會設立ノ際帝國海軍協會ノ特別會員、通常會員又ハ賛助員タル者ハ出金ヲ要セスシテ本會ノ同種會員又ハ賛助員タルコトヲ得

名譽會員、特別會員及通常會員ニハ各一定ノ徽章ヲ贈與ス

第十九條 本會ニ特殊ノ功勞アル者及金壹千圓以上ヲ寄附シタルモノニハ有功章ヲ贈與ス

前條第二項ニヨリ本會員トナリタル帝國海軍協會ノ佩有功章者ハ本會ノ佩有功章者トス

第五章 會議及大會

第二十條 會議ヲ別チテ理事會及評議員會トス

第二十一條 理事會ハ理事長隨時之ヲ招集ス

第二十二條 理事會ノ議事ハ出席者ノ過半數ヲ以テ之ヲ決シ可否同數ナルトキハ議長ノ表決ヲ以テ之ヲ決ス

第二十三條 評議員會ハ通常及臨時トス

通常評議員會ハ毎年十二月及四月理事長之ヲ招集シ本會ノ豫算及決算ヲ議定ス

臨時評議員會ハ理事長必要ニ應シ之ヲ招集ス

評議員五人以上ヨリ會議ノ目的タル事項ヲ示シテ請求スルトキハ理事長ハ臨時評議員會ヲ招集スルコトヲ要ス

第二十四條 左ノ事項ハ評議員會ノ議ニ附スルコトヲ要ス

一、本會諸規則ノ制定及變更

二、本會ニ於テ施行スヘキ事業ノ決定

三、本會資産ノ管理方法ノ決定

四、其他理事會ニ於テ評議員會ノ決議ヲ要スト認メタル事項

第二十五條 評議員會ノ議事ハ出席者ノ過半數ヲ以テ之ヲ決シ可否同數ナルトキハ議長ノ表決ヲ以テ之ヲ決ス

出席シ得サル評議員ハ書面ヲ以テ表決ヲ爲シ又ハ他ノ出席評議員ニ表決權ノ行使ヲ委任スルコトヲ得此場合ニ於テハ出席者ト看做ス(大正十一年六月十九日追加)

左ニ掲クル事項ニ付テハ評議員二分ノ一以上ノ出席アリ且出席者三分ノ二以上ノ同意アルコトヲ要ス但評議員二分ノ一以上ノ出席ナカリシ爲メ同一事項ニ付更ニ評議員會ヲ招集シタルトキハ評議員二分ノ一以上ノ出席ヲ要セス

一、第三條第一項第一號ニ掲クル船舶、機器ノ製造購入又ハ處分

二、理事及監事ノ選任

三、不動産ノ購入又ハ處分

第二十六條 本會ハ必要ニ應シ會員大會ヲ開ク
會員大會ニハ資産ノ狀況及事業ノ成績ヲ報告ス

第六章 資 産

第二十七條 本會ノ資産ハ左ニ掲クルモノヲ以テ之ヲ組成ス

- 一、現 金 金四拾壹圓貳拾錢九厘
 - 二、銀行預金 金參百四拾九萬四千五百七拾八圓貳拾壹錢五厘
 - 三、假拂金 金七千七百九拾七圓拾參錢
 - 四、有價證券 金九千五百八拾貳圓七拾六錢
 - 五、土 地 金四萬七千參百五拾壹圓五十七錢
 - 六、家 屋
 - 七、船 舶 金四拾六萬參千四百八拾九圓
 - 八、別表ニ掲クル圖書及什器 (別表略ス)
- 以上ノ外帝國義勇艦隊ノ資産ニ附屬スル帝國海事協會ノ債權及債務ハ總テ本會ニ於テ之ヲ承繼ス
- 二、本會ノ事業又ハ財産ヨリ生スル收益

三、寄附金其他本會ニ於テ取得スル財産

第二十八條 前條第一號ノ資金ハ之ヲ本會ノ基本トシ其收益ハ毎年度其幾分ヲ元本ニ繰入レ總額五百萬圓ニ達セシムルモノトス

第二十九條 本會資産中ノ現金ハ之ヲ以テ國債證券若クハ確實ナル有價證券ヲ購入シ又ハ之ヲ郵便局若クハ確實ナル銀行ニ預ケ入ルルモノトス但特別ノ事情アルトキハ之ヲ以テ不動産ヲ購入スルコトヲ得

第七章 會 計

第三十條 本會ノ收支ハ毎事業年度ノ豫算ニ依リテ之ヲ行フ

第三十一條 本會ノ收支ハ毎事業年度ノ末日ヲ以テ之ヲ決算ス

第三十二條 本會ハ事業年度毎ニ財産目錄、貸借對照表及事業報告書ヲ作り決算ト共ニ之ヲ評議員會ニ提出スヘシ

第八章 補 則

第三十三條 本寄附行爲ノ條款ハ評議員會ノ決議ヲ經且主務大臣ノ認可ヲ受ケテ之ヲ變更スルコトヲ得
前項ノ決議ニ關シテハ第二十五條第三項ノ規定ヲ準用ス(大正十一年六月十九日改正)

第九章 附 則

第三十四條 第一回ノ評議員會ハ帝國海事協會理事長之ヲ招集ス

追加

●航空法中關稅ニ關スル規程ノ施行規則

(昭和二年十二月八日 朝鮮總督府令第四百十四號)

第一條 本令ニ於テ國際航空條約ト稱スルハ大正八年十月巴里ニ於テ署名調印セラレタル航空ニ關スル條約及大正九年五月巴里ニ於テ署名セラレタル同條約議定書ヲ謂フ

第二條 法令又ハ國際航空條約ニ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外本邦ト外國トノ間ヲ航空スル航空機カ稅關飛行場ニ着陸シタルトキハ貨物ノ積卸ヲ爲スト否トニ拘ラス當該航空機ノ長ハ遲滯ナク稅關ニ其ノ航空機ノ國籍、登録記號、種類及型式、人及貨物ノ積載力、出發地、着陸ノ日時、乗組員ノ數、貨物又ハ旅客積載ノ有無並航空ノ目的ヲ記載シタル着陸届ヲ爲シ機用品目錄並貨物又ハ旅客ヲ積載スル場合ニ於テハ貨物ノ積荷目錄又ハ旅客氏名表及旅行用品ノ積荷目錄ヲ提出スルト同時ニ航空機ノ日誌ヲ呈示スヘシ

稅關官吏着陸届ヲ正當ト認メタルトキハ前項ノ日誌ニ記名捺印スヘシ

第三條 日本航空機及國際航空條約加盟國ニ屬スル航空機カ國際航空條約加盟國ヨリ本邦ニ來リタル場合

ニ其ノ提出スヘキ積荷目錄ハ様式第一號ニ依リ之ニ様式第二號ニ依ル稅關申告書ヲ添附スヘシ

第四條 國際航空條約第八附屬書九ノ規定ニ依リ航空機ニ對スル輸入稅ノ免除ヲ受ケントスルトキハ當該航空機ノ長ハ其ノ航空機ノ國籍、登録記號、機體及發動機ノ種類及型式、價格、航空ノ目的並着陸ノ日ヨリ一年ヲ超エサル期間内ニ於ケル再輸出ノ時期ヲ記載シタル免稅申請書ヲ最初ノ着陸地所管稅關ニ提出スヘシ

前項ノ場合ニ於テ稅關長ハ必要ト認ムルトキハ輸入稅ニ相當スル擔保ヲ供託セシムルコトヲ得

第五條 第二條第一項ノ航空機カ稅關飛行場ヲ離陸セントスルトキハ貨物ノ積卸ヲ爲シタルト否トニ拘ラス當該航空機ノ長ハ稅關ニ其ノ航空機ノ國籍、登録記號、種類及型式、人及貨物ノ積載力、仕向地、離陸ノ日時、貨物又ハ旅客積載ノ有無並航空ノ目的ヲ記載シタル離陸届ヲ爲スト同時ニ航空機ノ日誌ヲ呈示スヘシ

離陸ノ免許アリタルトキハ稅關官吏ハ日誌ニ記名捺印スヘシ

第六條 日本航空機及國際航空條約加盟國ニ屬スル航空機カ本邦ヨリ國際航空條約加盟國ニ赴ク場合ニ於テハ離陸届ヲ爲スト同時ニ貨物ヲ積載スルモノニ在リテハ様式第一號ニ依ル積荷目錄ニ様式第二號ニ依ル稅關申告書ヲ添附シ之ヲ稅關ニ呈示スヘシ

稅關官吏前項ノ書類ヲ正當ト認メタルトキハ積荷目錄ニ記名捺印スヘシ

第七條 航空法第三十四條ニ規定スル許可（稅關飛行場ニ非サル場所ニ着陸シ又ハ稅關飛行場ニ非サル場所ヨリ離陸スルノ許可）ヲ受ケントスルトキハ航空機ノ長ハ航空機ノ國籍、登録記號、種類及型式、人及貨物ノ積載力、出發地又ハ仕向地、着陸地又ハ離陸地、着陸又ハ離陸ノ豫定月日、着陸地ニ於ケル停留期間、着陸又ハ離陸ノ目的並貨物ノ積卸ヲ爲スモノニ在リテハ其ノ品名、包裝ノ種類、包裝ノ箇數、數量、價格及仕向地又ハ仕出地、旅客ノ積卸ヲ爲スモノニ在リテハ旅客ノ員數及出發地又ハ目的地ヲ記載シタル文書ヲ以テ着陸又ハ離陸セントスル地ヲ管轄スル稅關ヲ經由シ朝鮮總督ニ許可ノ申請ヲ爲スヘシ

第八條 警察官吏ニ於テ航空法第四十條第一項ノ届出ニ故障又ハ避難ノ爲其ノ他已ムコトヲ得サル事由ニ依リ稅關飛行場其ノ他許可ヲ受ケタル着陸ノ場所以外ニ着陸（以下單ニ不時着陸ト稱ス）シタルトキノ届出ニ受ケタルトキハ其ノ地ヲ管轄スル稅關又ハ稅關監視署ニ其ノ旨急報スヘシ

第九條 航空法第四十條第二項ニ規定スル許可（不時着陸シタル航空機ノ離陸ノ許可）ヲ受ケントスルトキハ稅關官吏カ其ノ地ニ在ル場合ニ於テハ稅關官吏ニ、稅關官吏カ其ノ地ニ在ラサル場合ニ於テハ警察官吏ニ許可ノ申請ヲ爲スヘシ

前項ノ離陸ノ許可アリタルトキハ稅關官吏又ハ警察官吏ハ貨物ヲ積載セサル航空機ニ付テハ日誌ニ、貨物ヲ積載セル航空機ニ付テハ日誌及積荷目錄ニ記名捺印スヘシ

前條ノ規定ハ警察官吏ニ於テ第一項ノ離陸ノ許可ノ手續ヲ爲シタル場合ニ之ヲ準用ス

第十條 前各條ニ規定スルモノヲ除クノ外航空法ニ依リ航空機、航空機ノ長、航空機ノ機用品及航空機ニ依ル外國貨物ノ運送並之ニ關スル犯罪事件ノ調査及處分ニ付準用セラルル關稅法ノ規定ノ施行ニ關シテハ關稅法及大正九年法律第五十三號施行規則中ノ當該規定ヲ準用ス但シ船舶ノ名稱トアルハ航空機ノ登録記號トシ航空機及之ニ積卸ヲ爲ス貨物ニ關スル特許手数料ハ左ノ割合トス

臨時開廳特許手数料

日出ヨリ日没迄	一時間迄毎ニ	二圓五十錢
日没ヨリ午後十二時迄	同	五圓
午後十二時ヨリ日出迄	同	九圓
貨物積卸、搬入、搬出及取扱特許手数料		
日出ヨリ日没迄	一時間迄毎ニ	五十錢
日没ヨリ午後十二時迄	同	一圓
午後十二時ヨリ日出迄	同	二圓
派出検査特許手数料		
検査ニ要スル時間一時間迄毎ニ	一	圓

14.7
407

14.7
407

